

Díez Nicolás, Juan: Postmaterialismo y Desarrollo Económico en España. Japón  
COE, 2004

## ポストマテリアリズムと経済的発展 ——スペイン国内の地域的差異——

Juan Diez-Nicolas  
武 重 雅 文 訳

### スペインにおけるポストマテリアリズムと経済発展

他のヨーロッパ諸国と同様、スペインもまた60年代の10年間に著しい経済発展を経験した。内戦（1936年～1939年）に続く経済的独裁政治と復興時代（1939年～1952年）の後、スペインはアメリカ合衆国及びローマカトリック教皇庁との協定（1953年）、経済安定計画の履行（1959年）、さらには第一次経済社会発展計画（1964年～1968年）を経て、政治的経済的な国際関係の正常化につとめた。

1900年には、スペインの人々は主に農業に従事し（71%）、工業人口（14%）及びサービス業人口（15%）が占める割合はごくわずかだった。1940年の内戦直後には、半数以上（52%）がなおも農業に従事していたものの、他は工業（24%）、サービス業（24%）が占め、1970年には、農業人口は25%に減少し（1940年時の半分）、一方、大多数は工業（38%）及びサービス業（37%）に従事している。

社会経済指標は、スペインの最も急激な変化が60年代に起こったことを示している。ゆえに文盲率（10歳以上の人口について）は1900年の56%から、1940年には23%、さらに1970年には8%へと減少した。平均寿命は1900年の35歳から1940年の47歳、1970年の70歳と上昇し、幼児の死亡率は、1900年には新生児1000人につき1歳未満の死亡児が180人だったのに対し、1940年には1000人につき120人、1970年には1000人につき20人と減少した。大都市の人口（一万人以上の地方自治体）は、1900年の32%から1940年には49%、1970年には65%と増加した。1950年～1970年にかけてスペインで起こった社会経済的变化は、1900年～1950年にかけておきた变化よりもはるかに大きかった。

しかし、発展水準の変化を最もよく示す指標は個人所得である。ビルバオ・ビスカヤ銀行の調査によれば、1955年～1962年における個人所得の年間成長率は（1975年のペセタベースで）4.3%だった。しかし、1962年～1969年の間に成長率は7.1%に上昇し、1969年～1975年の間に3.6%と再び減少した。経済社会調査基金（貯蓄銀行連合）の見積りによれば、1960年～1975年にかけてのスペインの個人所得の年間成長率は7.1%であり、1975年～1985年では1.8%に落ち込んだものの、1985年～1989年では再び4.7%に増加している。

事実、1975年に始まった民主主義への平和的な政治的移行は、それに先立つ20年間に起こっていた重要な経済社会的变化（社会的価値観の変化を含む）によって、より容易に達成されたのである。

## ポストマテリアリズムの勃興

60年代以後のスペイン経済の発展が高水準であったこと、そして長期間にわたりスペインがいかなる戦争にも参加しなかったことがこうした状況を生み出したわけだが、ポストマテリアリズムの理論によれば、それは人々の価値観をポストマテリアリスト的志向へと変化させるはずのものだった。1981年と1990年の二度にわたる「ヨーロッパ価値観調査」(アンドレス・オリゾ、1983、1991年)ではその予想通り、1981年～1990年間にポストマテリアリズムが増加したことを示しており、スペインにおけるポストマテリアリズムの水準は、他の西ヨーロッパ諸国との間に匹敵するほどであり、発展の水準とも一致しているようである。にもかかわらず、これら二つの調査では時期についても(二つの調査の間の年のデータはない)範囲についても(この標本の規模では17の自治体の比較はできない)より詳細な分析ができない。

しかし、18歳以上のスペイン国民を対象に、全国的標本を用いたASEPの月別集計データは分析可能である。1988年10月以来、ASEPは、ポストマテリアリズムを測定するのにイングルハートがよく用いる12項目を含んだデータを出している。これにより、1988年には、3656人、1989年には、12059人、1990年に13363人、1991年に12125人、1992年に13354人、つまり1988年10月～1992年12月間で総計54547人のインタビューを処理することが可能となった。

この多量のデータでは、分析が様々な構成単位(スペイン全土、諸地域及び自治州、個人)から成っており、傾向(縦軸)に対し、クロス・セクショナルな分析を行うことが可能である。しかし、この各月の標本の規模(1200人)、さらに標本が各地域で大きく異なる人口の規模を考慮した相対的なものであることからすれば、データが1988年10月～1992年12月のうち45ヵ月間の総計から成る場合には、地域を分析の単位として使用するのが最も信頼性の高いものと言える。それでも次の3地域におけるインタビューの総数は1000人未満である。カンタブリア(736人)、ナバーラ(707人)、ラ・リオハ(373人)。

ここでまず強調しておかなくてはならない点は、調査が短期間(まる五年未満)であるにもかかわらず、ポストマテリアリストの割合<sup>1)</sup>がスペイン全体で7%ポイント伸びたのは、1988年～1992年の間であったようだということである(表1)。つまり年平均で約1.4%ポイントの成長である。これは、アブラムソンとイングルハート(1987年)が世代交代から生じるとして見積もった成長率とほぼ一致している。3ヵ月ごとにまとめたデータ(図1)は、年間ごとのものよりも大きな変動を見せている。標本が小さければ誤差も大きいが、ポストマテリアリズムの勃興への傾向は同じくらいはっきりしている。

少なくとも年間10回の調査が行われた4年間にわたる地域別の分析(表2)では、17の自治州のうちの14地域で、1992年におけるポストマテリアリストの割合が、1989年のものよりも高いことを示している。ナバーラでは両年とも同じ割合を示したが、アンダルシアでは1992年には1989年よりも2%ポイント低かった。ラ・リオハだけは、8%ポイントという比較的大きな減少を示しているが、これはラ・リオハが人口最小地域で、他の地域よりもかなり小規模の標本だということを考慮しておかなければならぬ<sup>2)</sup>。17の自治体は図2において、同様の成長パターンに応じて分類される。ゆえにマドリッド・カタルーニャ、カナリアス、カスティーリャ・レオン、カスティーリャ・ラ・マンチャ、

表1 スペインにおける最優先の国家目標とポストマテリアリストの割合、1988年～1992年

	1988	1989	1990	1991	1992
計	(3,656)	(12,059)	(13,363)	(12,125)	(13,354)
<b>第1目標</b>					
秩序の維持	43%	41%	40%	42%	38%
* 重要政策や政治的決定に対し、国民がより自由に発言できること	16	15	15	16	18
物価対策	26	28	28	26	30
* 言論の自由を守ること	10	11	13	13	12
なし	1	*	1	1	1
その他／不明	4	5	4	3	2
<b>第2目標</b>					
高い経済成長率の維持	22%	22%	21%	21%	20%
国家防衛能力を持つ軍隊を作ること	4	4	5	8	7
* 仕事や居住地域に関する重要な決定に対し、国民がより自由に発言できること	12	13	13	13	15
* 環境保護	6	8	12	12	13
経済の安定	14	15	14	12	15
滞納対策	25	24	20	21	20
* より他人を思いやる社会への発展	8	6	7	6	6
* 金銭よりも考え方、着想を重視する社会への発展	4	3	4	4	4
なし	*	*	*	*	*
その他	5	5	5	3	2
<b>ポストマテリアリスト</b>	<b>27</b>	<b>27</b>	<b>32</b>	<b>32</b>	<b>34</b>

\* これらの項目はポストマテリアリスティックな価値観を表している。

出所：ASEPデータバンク 1988年～1992年

ガリシアではポストマテリアリズムが増加し続けるという明確なパターンを示している。しかし、バレアーレスとエストラマドゥーレでは、そのパターンをたどりつつも、1992年にはポストマテリアリズムは減少している。一方、アストゥリアスでは、1990年に減少し始めたが、その後は増加し続けているようである。他方、アラゴン、カンタブリア、マルシア、バスク地方とバレンシア自治区では、1990年～1991年にはポストマテリアリズムの減少を、1992年には回復を示している（カンタブリアとアラゴンを除く）。アンダルシアとナバーラにおいてのみ、ポストマテリアリストはかなり安定した割合を保ってきたようである（アンダルシアでは減少傾向にある）。一方、ラ・リオハではおそらく標本が小規模であるために、変動が不規則である。

全体的に、1989年～1992年間におけるポストマテリアリズムの増加傾向はスペイン全土のみならず、ほとんどの地域・州においても明らかである。

表2 自治州別ポストマテリアリストの分布(%)、1989年～1992年

		ポストマテリアリスト																		
		スペイン アンダル シア	アラゴン アス	アストゥリ ャス	バレア レス	カナリアス プリア	カンタ ブリア	カスティ ーリャ・ マンチャ	カタル ーニャ	エストレ マドリード	ガリシア	ラ・リオハ	マドリッド ムルシア	ナバーラ	バスク 自治区	バレニシア				
1989		計	(12,059)	(2,082)	(384)	(341)	(225)	(496)	(162)	(819)	(519)	(1,896)	(338)	(879)	(76)	(1,526)	(304)	(147)	(676)	(1,173)
0.	マテリアリスト	18%	24%	16%	5%	21%	30%	21%	31%	14%	27%	31%	13%	9%	17%	12%	8%	14%		
1.		27	27	26	59	25	18	28	34	23	35	25	25	28	19	19	19	29		
2.		28	26	34	31	18	25	22	31	22	32	24	21	29	35	28	27	29		
3.		17	16	16	14	16	17	14	14	17	14	8	21	17	21	17	19	27		
4.		7	5	6	7	3	9	12	4	4	7	3	6	12	9	2	14	13		
5.	ポストマテリアリスト	3	2	1	2	1	4	2	1	3	1	3	4	2	4	3	*	8	7	
%	ポストマテリアリスト	27	23	24	26	18	29	30	20	13	30	15	22	33	33	20	41	46	28	
1990		計	(13,363)	(2,302)	(428)	(382)	(257)	(547)	(183)	(907)	(562)	(2,092)	(376)	(988)	(89)	(1,665)	(353)	(165)	(746)	(1,308)
0.	マテリアリスト	14%	22%	8%	14%	3%	18%	11%	17%	25%	6%	19%	23%	13%	11%	11%	11%	6%	9%	
1.		24	29	25	32	36	23	26	24	30	21	21	24	27	21	26	14	12	23	
2.		30	26	31	31	37	28	26	31	26	35	37	27	30	28	33	34	28	34	
3.		21	15	26	15	19	21	25	19	15	28	12	17	21	24	18	26	31	24	
4.		7	5	7	7	4	7	10	7	4	8	7	5	5	10	8	8	15	8	
5.	ポストマテリアリスト	3	2	2	2	*	2	3	1	*	3	3	3	4	5	3	8	8	3	
%	ポストマテリアリスト	32	22	36	24	30	38	27	19	38	23	25	30	30	40	30	41	54	34	
1991		計	(12,125)	(2,004)	(401)	(364)	(238)	(430)	(167)	(853)	(529)	(1,932)	(326)	(938)	(90)	(1,513)	(297)	(171)	(683)	(1,187)
0.	マテリアリスト	12%	18%	13%	12%	7%	9%	10%	15%	27%	7%	14%	18%	13%	8%	9%	16%	10%	7%	
1.		24	32	21	26	36	25	25	23	27	19	22	24	17	20	30	19	17	28	
2.		32	28	34	35	34	30	34	30	26	34	35	33	34	31	38	27	30	36	
3.		22	15	22	20	23	25	24	20	17	26	23	18	29	25	19	26	25	23	
4.		7	5	9	4	6	6	7	7	3	11	4	5	7	11	3	9	14	5	
5.	ポストマテリアリスト	3	2	1	3	4	2	3	1	1	3	2	2	1	6	*	4	4	1	
%	ポストマテリアリスト	32	22	32	27	32	33	34	28	20	40	29	25	37	41	23	39	43	29	
1992		計	(13,354)	(2,228)	(439)	(399)	(250)	(474)	(181)	(930)	(570)	(2,144)	(370)	(1,030)	(99)	(1,640)	(341)	(183)	(69)	(1,305)
0.	マテリアリスト	11%	20%	12%	6%	6%	7%	10%	12%	22%	5%	15%	14%	23%	7%	2%	11%	8%	7%	
1.	マテリアリスト	24	32	26	23	32	19	33	23	24	20	41	26	22	20	31	16	17	23	
2.	マテリアリスト	31	28	32	31	33	30	25	31	29	34	25	30	29	31	39	31	27	35	
3.	マテリアリスト	23	15	21	28	19	28	19	25	19	27	14	20	17	31	23	25	26	26	
4.	マテリアリスト	8	5	7	7	14	10	7	4	11	4	8	5	8	5	14	17	8		
5.	ポストマテリアリスト	2	1	2	4	3	3	2	2	1	4	1	3	3	3	1	3	6	1	
%	ポストマテリアリスト	34	21	30	39	29	45	32	33	24	42	18	30	25	42	28	41	48	35	

出所：ASEPデータバンク、1989年～1992年

表3 スペイン及び自治州における近年のポストマテリアリスト、1989年～1992年（四半期別）

自治州	1989				1990				1991				1992			
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
N=	(3,627)	(3,620)	(1,194)	(3,619)	(3,608)	(3,646)	(2,406)	(3,703)	(3,557)	(3,628)	(1,200)	(3,640)	(3,630)	(3,635)	(2,435)	(3,653)
スペイン	24	26	31	29	32	33	31	31	33	29	29	34	31	34	38	35
アンダルシア	21	25	29	21	22	22	20	24	22	19	18	25	15	21	27	23
アラゴン	23	16	34	29	45	29	33	34	31	33	28	35	20	35	35	32
アストゥリアス	18	28	24	33	24	26	29	19	33	25	16	27	33	43	41	39
バレアーレス	13	14	29	23	29	17	18	29	42	25	30	29	21	29	34	33
カナリアス	30	34	24	25	30	32	28	29	32	33	30	34	40	47	38	52
カンタブリア	23	25	46	38	33	49	34	32	38	32	43	31	23	36	18	46
カステイリャ・レオン	20	16	21	23	29	31	23	25	33	22	32	27	27	33	41	34
カステイリャ・ラ・マンチャ	12	15	9	15	15	14	33	19	22	26	13	16	26	18	31	24
カタルーニャ	26	33	31	32	39	40	33	39	41	39	41	41	44	40	43	39
エストレマドゥーラ	12	14	6	21	25	22	16	26	24	38	22	27	18	24	13	16
ガリシア	17	20	26	28	24	27	31	21	26	20	27	30	27	32	32	30
ラ・リオハ	35	25	60	30	13	32	58	27	59	22	22	34	11	11	5	67
マドリッド	28	30	35	39	42	40	39	42	39	35	34	52	41	43	45	41
ムルシア	19	11	37	24	22	27	41	33	27	22	36	15	20	29	42	26
ナバーラ	37	47	62	31	37	31	42	57	51	37	35	29	33	19	60	61
バスク地方	44	46	54	47	56	67	57	38	43	37	47	48	43	49	58	46
バレニシア自治区	25	20	34	37	34	34	35	33	25	24	31	36	32	40	35	

出所：ASEPデータバンク、1989年～1992年

表4 スペイン及び自治州における人口に対する近年の失業率(%)、1989年～1992年(四半期別)

自治州	人口に対する失業率(%)																
	1989			1990			1991			1992							
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	
スペイン	18.4	17.3	16.6	16.9	16.7	16.3	15.9	16.1	16.1	15.5	16.4	17.0	17.5	17.7	18.3	20.1	
アンダルシア	27.8	27.0	26.1	27.3	25.6	25.8	25.0	25.9	25.1	24.5	26.9	26.7	26.6	26.8	28.5	30.7	
アラゴン	13.2	11.9	11.5	11.7	10.6	9.3	8.9	9.1	9.3	9.3	10.6	11.7	10.8	12.0	13.7		
アストゥリアス	18.5	17.3	17.0	18.5	19.1	17.3	15.9	17.0	16.5	16.0	15.2	15.7	16.5	17.6	16.7	18.1	
バレアーレス	12.2	10.2	8.7	11.5	12.0	10.1	8.1	11.6	12.5	8.4	8.4	10.4	10.8	10.7	10.7	13.1	
カナリアス	21.6	22.3	21.3	20.8	22.5	23.0	23.9	22.7	23.3	24.2	24.7	25.6	24.9	24.6	24.4	25.4	
カンタブリア	20.4	17.5	17.2	16.1	17.7	16.8	16.1	16.5	15.5	15.3	15.5	17.5	15.7	16.2	16.4	17.7	
カステイリャ・レオン	18.4	17.2	15.4	15.7	15.6	15.5	15.1	14.9	15.6	14.5	14.5	14.2	15.5	16.9	17.2	17.3	18.3
カステイリャ・ラ・マンチャ	15.1	14.7	12.6	14.0	14.0	13.3	12.3	12.6	13.1	13.5	12.4	12.9	14.8	15.3	15.9	16.3	
カタルーニャ	15.5	14.2	13.8	13.7	13.1	12.6	12.4	12.7	12.3	11.7	12.1	12.8	12.9	13.0	12.8	15.7	
エストレマドゥーラ	26.9	26.7	23.9	26.3	26.7	25.3	22.6	23.5	23.8	24.1	21.9	25.7	26.6	26.2	24.9	25.8	
ガリシア	12.5	12.4	11.9	11.5	12.7	11.9	11.4	12.2	12.3	12.3	11.7	12.6	15.0	16.1	16.0	17.1	
ラ・リオハ	12.5	9.5	9.0	9.3	8.6	7.3	8.2	9.3	9.0	9.1	9.0	11.2	11.7	12.9	15.4	14.2	
マドリッド	14.4	13.2	12.7	12.6	13.1	12.5	12.8	11.7	11.7	11.6	12.4	12.9	11.9	12.4	12.9	15.5	
ムルシア	16.7	16.1	16.2	15.7	15.1	15.7	17.4	15.0	16.8	16.4	19.0	20.1	21.3	19.3	21.2	22.3	
ナバーラ	14.6	11.4	13.1	11.9	13.5	10.9	10.8	11.8	11.8	10.3	10.1	10.3	11.3	10.5	10.7	11.9	
バスク地方	21.2	19.8	18.7	18.8	18.9	19.3	17.9	19.0	18.3	19.0	18.5	19.3	19.0	18.8	19.4	22.1	
バレンシア自治区	15.9	15.2	15.2	14.6	14.0	14.5	14.0	15.1	15.8	16.0	15.9	17.1	18.6	20.6	20.4		

出所：Instituto Nacional De Estadística (INE), マドリック

表5 スペイン及び自治州におけるインフレ率、1989年～1992年（四半期別）

		インフレ率															
		1989			1990			1991			1992						
自治州		1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12
スペイン		2.0	1.0	3.4	.6	1.8	.8	2.3	1.6	1.3	.7	2.7	.7	2.2	.5	1.3	1.1
アンダルシア		2.2	1.1	2.6	.8	2.4	.9	2.3	1.5	1.0	.9	2.3	.8	2.4	.8	.9	.7
アラゴン		1.4	.7	2.5	1.6	1.3	.3	3.0	2.3	.8	.6	2.4	2.1	1.9	0	1.8	1.1
アストゥリアス		2.5	.7	2.3	1.6	1.9	.6	2.1	2.0	2.0	.7	1.9	1.2	2.6	4	1.6	.9
バレアーレス		1.2	1.8	2.8	.7	.7	1.7	2.0	1.5	.7	.8	1.6	1.4	1.7	.6	1.2	.8
カナリアス		2.5	1.0	2.0	1.6	2.9	1.0	.3	1.3	2.4	0	1.2	1.2	2.5	1.1	.9	4
カンタブリア		1.9	.5	1.8	1.3	1.7	.8	1.7	1.7	1.4	.6	1.8	1.5	2.8	4	1.2	1.1
カスティーリャ・レオン		1.5	.7	2.8	1.2	1.6	.6	2.5	1.5	1.0	.5	2.5	1.4	1.7	4	1.8	.6
カスティーリャ・ラ・マンチャ		1.5	.8	2.9	1.4	1.6	.3	2.5	1.7	.7	.9	2.7	1.5	1.9	3	1.2	.8
カタルーニャ		1.6	.9	3.0	1.9	2.0	.7	2.5	2.3	1.4	.4	2.0	2.1	2.7	2	1.4	1.5
エストレマドゥーラ		1.8	1.0	2.1	1.4	1.5	.6	1.7	1.6	.7	.8	2.7	1.1	2.0	.7	1.6	1.1
ガリシア		2.4	1.1	2.3	1.7	1.6	1.1	1.8	1.1	1.9	1.2	1.4	1.1	2.1	.9	.9	1.1
ラ・リオハ		2.0	1.4	3.0	1.0	1.5	.9	3.7	1.1	2	.5	2.9	1.6	1.0	.1	2.8	1.1
マドリッド		2.2	1.0	1.9	1.8	1.8	.5	1.9	2.1	1.5	.2	1.8	1.7	2.2	.7	1.4	1.3
ムルシア		2.3	1.9	3.0	1.0	2.0	1.2	2.4	1.1	1.1	1.9	2.9	.1	2.1	.7	1.4	.4
ナバーラ		1.9	.7	2.3	.5	1.9	1.1	3.1	1.4	1.2	.9	2.8	1.2	1.6	.7	1.9	.9
バスク地方		2.0	.7	2.3	1.3	2.1	.6	2.0	1.8	1.3	.4	1.8	1.6	1.6	.5	1.4	1.3
バレシシア自治区		1.7	1.4	2.8	1.1	1.2	1.2	2.2	1.5	1.2	1.2	2.1	1.0	2.5	.4	1.2	.9

出所：INE、マドリッドによる月間消費者物価指数に基いて計算した

、イン及び自治州におけるボストマテリアリズムの失業者、インフレ、個人所得、1989年～1992年

ポストマテリアリズム	失業率												インフレ				一人当たりの州民総生産(現行セタ)								
	失業率 (失業者／人口%)												年率(%)				—								
	—	×	比	—	×	比	—	×	比	—	×	比	—	×	比	—	×	比	—						
自治州	1989	1990	1991	1992	1989-92	92/89	1989	1990	1991	1992	1989-92	92/89	1989-92	92	1989-92	92/89	1989	1990	1991	1992					
スペイン	27	32	34	31	126	17.3	16.2	16.4	18.4	17.1	106	7.1	6.8	5.9	5.9	6.4	83	1,065.6	1,330.4	1,450.0	1,548.0	1,348.5	145		
andalusia	23	22	21	22	91	27.0	25.6	25.8	28.2	26.6	104	6.9	7.0	5.8	5.8	6.4	84	746.1	926.8	1,021.6	1,074.8	942.3	144		
アラゴン	24	36	32	30	125	12.1	9.5	9.9	12.1	10.9	100	6.4	6.4	6.5	6.0	6.3	94	1,108.7	1,405.2	1,539.1	1,637.8	1,422.7	148		
アストゥリアス	26	24	27	39	29	150	17.8	17.3	15.9	17.2	17.0	97	7.2	6.6	6.6	6.1	6.6	85	943.4	1,207.0	1,211.8	1,394.2	1,189.1	148	
バレアーレス	18	24	32	29	26	161	10.7	10.5	9.9	11.3	10.6	106	6.6	5.8	5.1	5.1	5.6	77	1,340.2	1,629.8	1,732.5	1,937.3	1,660.0	145	
カナリアス	29	30	33	45	34	155	21.5	23.0	24.5	24.8	23.4	115	7.3	6.7	4.6	5.4	6.0	74	966.8	1,171.9	1,264.6	1,346.1	1,187.4	139	
カンタブリア	30	38	34	32	34	107	17.8	16.8	16.0	16.5	16.8	93	5.6	5.6	5.5	6.3	5.8	112	1,090.6	1,345.1	1,396.4	1,546.4	1,344.6	142	
カステイーリャ・レオン	20	27	28	33	27	165	16.7	15.3	14.9	17.5	16.1	104	6.4	6.4	5.6	5.6	6.0	88	925.6	1,168.0	1,233.0	1,327.2	1,163.4	143	
カステイーリャ・ラ・マンチャ	13	17	20	24	18	185	14.1	13.0	13.0	15.6	13.9	111	6.8	6.4	5.8	5.7	6.2	84	807.6	1,033.0	1,121.6	1,190.3	1,038.1	147	
カタルーニャ	30	38	40	42	38	140	14.3	12.7	12.7	12.2	13.6	132	95	7.6	7.7	6.5	6.7	7.1	88	1,357.7	1,714.4	1,904.0	2,002.7	1,744.7	148
エストレマドゥーラ	15	23	29	18	21	120	26.4	24.5	23.8	25.9	25.2	98	6.4	5.6	5.1	6.1	5.8	95	643.6	813.9	903.9	928.4	822.4	144	
ガリシア	22	25	30	26	136	12.1	12.0	12.2	16.0	13.1	132	7.8	6.4	5.9	5.4	6.4	69	867.8	1,085.2	1,131.5	1,255.5	1,085.0	145		
ラ・リオハ	33	30	37	25	31	76	10.1	8.4	9.6	13.6	10.4	135	7.6	7.1	5.4	5.7	6.4	75	1,126.6	1,448.9	1,562.9	1,667.9	1,451.6	148	
マドリッド	33	40	41	42	39	127	13.2	12.5	12.2	13.2	12.8	100	7.1	6.3	5.7	6.1	6.3	86	1,488.0	1,826.7	1,993.6	2,156.9	1,866.3	145	
ムルシア	20	30	23	28	25	140	16.2	15.8	18.1	21.0	17.8	130	8.4	7.2	6.4	5.4	6.8	64	850.8	1,067.0	1,157.5	1,239.6	1,078.7	146	
ナバーラ	41	41	39	41	40	100	12.8	11.7	10.6	11.1	11.6	87	6.5	7.0	6.5	5.8	6.4	89	1,181.0	1,491.3	1,578.4	1,747.2	1,499.5	148	
バスク地方	46	54	43	48	48	104	19.6	18.8	18.5	19.8	19.2	101	6.3	6.3	5.6	5.2	5.8	82	1,187.6	1,485.6	1,598.1	1,698.8	1,492.5	143	
バレニシア自治区	28	34	29	35	32	125	15.4	14.3	15.7	19.2	16.2	125	7.4	6.3	6.1	5.9	6.4	80	1,084.7	1,352.0	1,500.0	1,584.7	1,380.4	146	

出所：ASEPデータバンク、1989年～1992年平均及び1989年～1992年平均(x)は月別データと4年間のデータを個々に計算したもの  
1992年比は、筆者の計算によるもの

出所：Instituto Nacional de Estadística,  
INE、マドリッドによる月別消費者  
物価指数に基づく筆者の計算によるもの

表7 スペイン及び自治州における社会経済的変数によるポストマテリアリズムの割合(%)、1988年～1992年

	1988年10月～1992年12月	ポストマテリアリスト (%)計	年齢			社会的地位			イデオロギー			社会経済的スタイル			国家主義			教育水準						
			18-29	30-49	50-64	65+	低	中	高	左	右	中	低	中低	中	高	中	地方	主張	国家	中	高	中	低
スペイン	31	47	34	20	14	22	33	45	40	27	21	15	21	33	45	37	29	29	51	43	22			
アンダルシア	22	37	23	10	8	17	25	32	28	20	17	13	14	25	34	25	20	21	43	35	15			
アラゴン	30	45	34	22	13	21	32	45	41	21	22	21	20	32	41	30	30	29	48	45	23			
アストゥリアス	29	47	32	17	13	23	30	42	39	22	18	21	18	29	40	35	26	27	45	39	21			
バレアーレス	25	47	30	15	6	12	28	42	38	21	15	11	9	26	42	30	22	27	53	42	16			
カナリアス	34	52	35	19	16	29	35	43	44	28	25	12	27	38	42	39	28	28	34	54	44	24		
カンタブリア	33	52	41	11	11	25	36	56	42	26	21	17	19	34	48	38	31	35	61	45	22			
カステイリヤ・レオン	27	44	30	16	11	20	33	44	38	26	21	15	18	30	41	28	28	26	47	42	17			
カステイリヤ・ラ・マンチャ	19	34	21	11	10	14	27	25	26	23	16	8	13	21	35	23	20	18	43	31	15			
カタルーニャ	37	52	41	27	20	27	38	49	47	30	26	23	25	37	51	43	36	32	56	46	29			
エストレマドゥーラ	21	43	24	11	6	17	24	45	31	22	11	10	20	24	33	22	20	22	42	42	15			
ガリシア	26	43	29	18	8	18	30	41	42	24	17	9	19	27	40	30	22	27	48	36	17			
ラ・リオハ	31	53	27	29	14	22	39	52	43	15	19	11	24	31	46	42	32	22	61	42	23			
マドリッド	38	52	41	28	21	27	37	48	49	31	26	22	27	39	49	43	44	34	53	47	30			
ムルシア	25	36	26	17	18	21	27	34	29	24	20	7	24	25	37	23	24	28	42	31	20			
ナバーラ	41	68	41	28	14	36	43	52	54	32	22	26	44	50	52	31	26	59	58	29				
バスク地方	48	66	53	33	25	39	50	59	60	39	25	27	37	49	60	56	44	29	65	59	37			
バレンシア自治区	31	46	34	23	16	26	32	46	39	27	25	22	23	35	41	31	30	31	51	41	26			

出所：ASEPデータバンク

表8 平均的ポストマテリアリスト（1988年～1992年）の1962年頃及び1991年における  
一人当たりGRP、インフレ、失業率(%)

	N=	一次相関係数ポストマテリアリズム：						年齢と 教育の 相関関係
		年齢	教育	社会経 済的スティ タス	社会的 地位	イデオ ロギー		
スペイン	35,629	-.32	.29	.21	.22	-.23		-.45
アンダルシア	5,672	-.35	.32	.18	.17	-.17		-.44
アラゴン	1,133	-.31	.24	.17	.24	-.30		-.49
アストゥリアス	1,165	-.32	.23	.16	.16	-.28		-.47
バレアーレス	848	-.38	.31	.27	.25	-.27		-.45
カナリアス	1,415	-.40	.31	.20	.14	-.26		-.38
カンタブリア	553	-.39	.25	.19	.21	-.26		-.41
カスティーリャ・レオン	2,314	-.32	.34	.19	.25	-.19		-.47
カスティーリャ・ラ・マンチャ	1,446	-.29	.27	.23	.22	-.14		-.48
カタルーニャ	5,466	-.29	.26	.21	.19	-.20		-.42
エストレマドゥーラ	914	-.36	.24	(.06)	.16	-.22		-.46
ガリシア	2,691	-.37	.34	.24	.25	-.31		-.49
ラ・リオハ	229	-.40	.26	.22	.20*	-.30		-.40
マドリッド	4,594	-.27	.22	.18	.20	-.24		-.44
ムルシア	1,046	-.28	.21	.19	.16	-.08*		-.47
ナバーラ	430	-.45	.33	.14*	.17	-.38		-.50
バスク地方	1,919	-.36	.26	.17	.16	-.33		-.46
バレンシア自治区	3,781	-.28	.22	.15	.16	-.20		-.48

.001レベルのものは、相関関係が大きいことを示す。

但し、\*については、.01レベルのものが重要、（ ）は重要でないもの

出所：ASEPデータバンク、1988年～1992年

## 会的地位とポストマテリアリズム

スペインについての有効なデータは、重回帰分析に年齢という要素を含めると、ポストマテリアリズムと教育との関係が著しく減少するという仮説を強く裏付けているようである。ゆえに、イングランドが「ポストマテリアリズム」と名づけた新しい価値体系の起源と普及を説明するのに補足的となる他のいくつかの仮説を検討してみることにしよう。

ば、生態系理論（ハウレー、1966、1991年、ディエス、ニコラス、1983年）を基本とした、価値主義とは社会集団の環境への適応を促進する有効的な文化的反応であるという説に従うと、こうし

表9 スペイン及び自治州におけるポストマテリアリズムと年齢、教育水準、  
家族の社会経済的ステータス、社会的地位、イデオロギーとの相関関係度及び  
年齢と教育水準との相関関係度、1988年～1992年

自治州	N=	R=	ポストマテリアリズムの～についての標準回帰係数				
			年齢	教育	社会経済的ステータス	社会的地位	イデオロギー(右派)
スペイン	35,629	.41	-.19	.16	.04	.05	-.20
アンダルシア	5,672	.42	-.23	.22	(.00)	.01	.16
アラゴン	1,133	.41	-.18	.10*	(.00)	.07	.23
アストゥリアス	1,165	.41	-.22	.11	(.00)	.01	.24
バレアーレス	848	.47	-.25	.17	(.01)	.04	.22
カナリアス	1,415	.47	-.29	.18	(.04)	.04	.20
カンタブリア	553	.47	-.31	.11	(.06)	.00	.23
カスティーリャ・レオン	2,314	.41	-.18	.23	(-.01)	.05	.14
カスティーリャ・ラ・マンチャ	1,446	.37	-.16	.15	-.09*	.04	.16
カタルーニャ	5,466	.38	-.17	.16	.07	.01	.19
エストレマドゥーラ	914	.42	-.28	.17	-.16	.05	.16
ガリシア	2,691	.46	-.20	.15	(.05)	.05	.22
ラ・リオハ	229	.46	-.29	(.11)	(.00)	.01	.20
マドリッド	4,594	.38	-.18	.09	.04*	.06	.22
ムルシア	1,46	.31	-.20	(.08)	(.08)	.01	-.10*
ナバーラ	43	.53	-.30	.17*	(-.03)	.02	.26
バスク地方	1,919	.44	-.22	.12	.02	.01	.25
バレンシア自治区	3,781	.35	-.20	.12	(.00)	.04	.19

.001レベルのものは、標準回帰係数が大きいことを示す。

但し、\*については、.01レベルのものが重要、( )は重要でないもの

出所：ASEPデータバンク、1988年～1992年

たより高い水準に発展した社会はまた、発展が環境にもたらすダメージ、そして環境の悪化が社会自身の（そして結果的には人類全体の）将来的幸福（そしてその結果としての安全）に及ぼす脅威というものをいち早く察知する社会でもあるのだということになる。ゆえに価値観の変化とは適応を助ける変化であり、それは環境における新しい（そして脅威的な）外界の状況から生じるのである。つまりポストマテリアリズムとは、より安全な新しい状況に対してだけでなく、将来的にその安全性を失うのではないかという恐れに対する集団の反応だと考えられるのである（矛盾しているが、この脅威とは、経済発展が現在の水準に達することに成功したことから生じたのである。）（ディエス・ニコラス、1980、1991、1992a、1992b）。新たな価値体系（ポストマテリアリズム）の普及の過程を説明す

るには、「周辺中心理論」(ガルタング、1964、1976年、バン・デル・ビア、1976年、ディエス・ニコラス、1966、1968年)が妥当であろう。この理論によれば、先進国とはポストマテリアリズムの水準がより高くなった国々でもあるのだが、それらの国々が世界の体系の「中心」となり、発展途上の(「周辺の」)国々へ新しいポストマテリアリストイックな価値観を輸出する「輸出国」になるという、各社会内における類似性について、異なる社会経済発展段階にいる個人を比較してみても、同様の過程をたどっていることがわかるはずである。先に見たように、こうした社会経済的発展段階が高くなるほど、よりポストマテリアリストイックにもなる。だが「周辺中心理論」は単なる社会経済的ステータス、すなわち社会的地位指標<sup>3)</sup>によって得られるものよりも、より緻密な「中心性」という尺度

表10 スペイン及び自治州のポストマテリアリズム従属変数における複合的回帰係数(R)及び年齢、社会経済的ステータス、社会的地位、イデオロギーの標準回帰係数

自治州	N	R	標準回帰係数			
			感情	年齢	イデオロギー (右派)	社会的地位
スペイン	35,629	.40	-.025	-.287	-.138	.135
アンダルシア	5,672	.41	.018	-.331	-.137	.093
アラゴン	1,133	.38	.006	-.290	-.146	.087
アストゥリアス	1,165	.39	-.050	-.305	-.160	.058
バレアーレス	848	.42	-.046	-.320	-.106	.143
カナリアス	1,415	.42	.015	-.364	-.138	.071
カンタブリア	533	.43	.012	-.374	-.079	.093
カスティーリャ・レオン	2,314	.39	.020	-.280	-.137	.134
カスティーリャ・ラ・マンチャ	1,446	.40	-.050	-.278	-.178	.112
カタルーニャ	5,466	.36	-.045	-.266	-.118	.114
エストレマドゥーラ	914	.39	.052	-.326	-.153	.041
ガリシア	2,691	.45	-.015	-.310	-.179	.132
ラ・リオハ	229	.43	-.070	-.362	-.029	.135
マドリッド	4,594	.35	-.075	-.253	-.147	.098
ムルシア	1,046	.31	-.014	-.268	-.060	.067
ナバーラ	430	.50	-.050	-.455	-.120	.018
バスク地方	1,919	.43	-.113	-.342	-.121	.070
バレンシア	3,781	.36	.018	-.269	-.161	.086

.001レベルは、標準回帰係数が大きいことを示す。

値し、\*については、.01レベルのものが重要、( )は重要でないもの

を発展させている。

説明的かつ因果関係のあると思われる分析（「パス分析」）をふまえて、スペインにおけるポストマテリアリズムの今後を占うのに最も重要なのは年齢であるということを示すことができた。だが、同時に特に「情報に通じている」ことが媒介変数として分析に含まれる場合には、「社会的地位」もまた、社会経済的ステイタスよりも一層強い説得力を持つことを示すこともできた。この「周辺中心理論」から得られる発見は、社会的地位が高く情報に通じている人々は、社会的地位が低く情報に通じていない人々に対し、新しい価値観を広める普及者となるということである。

表10に示されたようなこれらの発見を基に、重回帰的手段を通じたポストマテリアリズムの分析が

表11 スペイン及び自治州のポストマテリアリズム従属変数における重回帰係数  
(R)、及び感情、年齢、イデオロギー、社会的地位についての標準回帰係数  
数、1988年～1992年

自治州	N	R	標準回帰係数			
			感情	年齢	イデオロギー (右派)	社会的地位
スペイン	35,629	.40	-.025	-.287	-.138*	.135
アンダルシア	5,672	.41	.018	-.331	-.137	.093
アラゴン	1,133	.38	.006	-.290	-.146	.087
アストゥリアス	1,165	.39	-.050	-.305	-.160	.058
バレアーレス	848	.42	-.046	-.320	-.106	.143
カナリアス	1,415	.42	.015	-.364	-.138	.071
カンタブリア	533	.43	.012	-.374	-.079	.093
カスティーリャ・レオン	2,314	.39	.020	-.280	-.137	.134
カスティーリャ・ラ・マンチャ	1,446	.40	-.050	-.278	-.178	.112
カタルーニャ	5,466	.36	-.045	-.266	-.118	.114
エストレマドゥーラ	914	.39	.052	-.326	-.153	.041
ガリシア	2,691	.45	-.015	-.310	-.179	.132
ラ・リオハ	229	.43	-.070	-.362	-.029	.135
マドリッド	4,594	.35	-.075	-.253	-.147	.098
ムルシア	1,046	.31	-.014	-.268	-.060	.067
ナバーラ	430	.50	-.050	-.455	-.120	.018
バスク地方	1,919	.43	-.113	-.342	-.121	.070
バレンシア自治区	3,781	.36	.018	-.269	-.161	.086

.001 レベルは、標準回帰係数が大きいことを示す。

但し、\*については、.01 レベルのものが重要、( ) は重要でないもの

試みられた。年齢、社会的地位、二つのイデオロギー的変数（個人のイデオロギー的な左派または右派度、国家主義または地方主義度）が独立説明変数として用いられている（表11）。その結果は、スペイン全体だけでなく、17の自治体それぞれにとって、ポストマテリアリズムの今後を占う上で最も重要な要素となっているのは年齢であること、そして社会的地位もまたイデオロギー以上に重要であるが、国家主義的または地方主義的な感情というのはさほど影響力を持たない、ということである。（バスク地方を除く。ここでは年齢のポストマテリアリズムに対する影響力は社会的地位のそれよりも高く、イデオロギーのそれよりは若干低い）。ゆえに個人の年齢が若いほど、そしてその社会的地位が高いほどポストマテリアリズムの割合は高くなる。このことはポストマテリアリズムがすでに「社会の中心層」によって幅広く受け入れられているが、「社会の周辺」にいる少数派によってのみ、突発的に起った新たな価値体系であるのだということを示唆している。さらに、ポストマテリアリズムはイデオロギー的「右翼主義」よりも「左翼主義」（左派）と明確に関連しているように思われる（ディエス・メドラノ、ガルシア・モン、ディエズ・ニコラス、1989年）<sup>4)</sup>。

結果的に、教育は、たとえイデオロギーを伝達する役割を持っていたとしても、ポストマテリアリズムを最もよく説明しうる変数とはなりえていない。あらゆる有力な証拠が、年齢こそがポストマテリアリズムの将来を占う変数となっているという仮説を裏付けているようである。だが、これはまた「社会の中心」から「周辺」へと伝わる一過程として、ポストマテリアリスト的価値観の社会的な普及が起こるのだ、という補足的概念の裏付けともなっているようである。

### 注　釈

作者は以下の各社、団体に感謝します。スポンサーである、ASEP の「スペイン国民の意識」における月間国勢調査、ことに長期に渡りそれを行ったビルバオ・ビスカヤ銀行、ASEP のデータ・バンク設立を可能にしたエスパニョール・ド・クレディット銀行 (BANESTO)。またインスティテュート・ド・エステュディオス・ド・プロスペクティバ、ことに理事のジョゼ・アントニオ・ガレゴ・グレディラ氏に、1990年における「世界価値観調査」のためにスペインにおいて、ASEP によって行われた調査への出資に対しても感謝します。さらにインスティテュート・ナショナル・ド・エスタディスティカ、ことに、ジュアン・アントニオ・ディエズ・ヘドとミゲル・ド・カストロに、月間の失業者数及び消費者物価指数を提供してくれたことに対して。ロナルド・イングルハートとジュアン・ディエズ・メドラノに、本論執筆の間、様々な段階において多数の大変貴重なコメント、提案、考えを提供してくれたことに対して。サラ・コルテス、ルイス・コロミナス、マルタ・バラオナとパロマ・ミランに、データとテキスト進行の手助けをしてくれたことに対して。

- 1) この分析において総合レベルで用いられたポストマテリアリズムの指標は、「ポストマテリアリストの割合」である。（表2において、0～5ポイントにおける価値観度、3、4、5とは、表1で示したイングルハート考案の12項目の適性テストから得たものである。）にもかかわらず、ポストマテリアリストの割合とポストマテリアリズムの指標の間の相関係数（「ポストマテリアリスト」5と「マテリアリスト」0の違い）は、他の多くの著者によつて用いられているが、.86である。ポストマテリアリストと平均的ポストマテリアリズムとの相関係数は.95である。分析を繰り返し行った結果、これらの指標を用いることで実際に一致した結果が得られた。
- 2) ポストマテリアリズムの指標がポストマテリアリストの割合の代わりに用いられているとすれば、その唯一の例外とはバスク地方とラ・リオハである。

失業とインフレに関するデータはジ・インスティテュート・ナショナル・デ・エスタティスティカのものを用いた。

有効なデータが限られていたにもかかわらず、自治州レベルの確認はスペイン全土におけるインタビューで試みられた。この場合、問題となったのは時間的次元（観察記録が16で、年間ベースでなく四半期ベースであったこと）のみならず、自治州の四分の一はインタビューが1000人以下であり、うち7州においては100人以下であったという標本のサイズである。ゆえに、例えばポストマテリアリストの割合などでは、標本の表象的本質を減少させてしまっている。しかし、こうした限界があったにもかかわらず、インフレと失業率の関係は17のうち13の州で否定的な結果が、またインフレとポストマテリアリズムとの関係も17中12州で否定的な結果が出た。だが失業とポストマテリアリズムとの関係は六州で否定的な結果が、11州で肯定的な結果が現れ、やや安定を欠いている。確かに、こうした相関係数は統計的重要性に欠けてはいるが、関係の方向性を見つけることができたという点の方がより重要である。

例えばベルギーでは、ポストマテリアリズムと失業の関係は完全に否定されている。（イングルハートとアブラムソン、一九九三年）

FOESSA財団、ジ・インスティテュート・ナショナル・デ・エスタティスティカ、ジ・インスティテュート・デ・ラ・オピニオン・パブリカのデータをもとにしたこの分析における最も重要な発見は、スペインの教育水準は父親の教育水準よりも職業的地位に依存している、より広い意味ではスペインにおける教育水準は父親の職業的及び教育的ステータスに左右されているということであり、その結果はアメリカ合衆国、ペルトリコ以上である。

- 3) 社会的地位指標は、性、年齢、教育水準、収入、職業、経済活動領域、居住空間、生態環境の中心性など、説明・因果性の分析によく用いられる八項目の統計的変数と結びついている。
- 4) この分析は現在、「世界価値観調査、1990年～1991年」に参加する40ヶ国で繰り返し行われており、まもなく出版予定である。